

年 頭 所 感

あけまして
おめでとうございます

地質調査所長 垣見 俊 弘

昭和61年の年頭に当り 読者の皆様からの地質調査所の研究業務に対する日頃のご理解とご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

当所は明治15年創立以来 地質及び地下資源に関する総合的な調査研究機関として 一貫してその業務の遂行に務めて参りました。この間の先輩各位のご苦労 ご努力に深く敬意を表しますとともに 関係各位の変らぬご支援 ご鞭達に心からお礼を申し上げます。

申すまでもなく 当所の使命は 地球という自然の認識を基盤とし 資源・エネルギーの探査と評価 環境の評価や災害の予測等を行って社会からの要請に応え 併せて地球科学の進歩に寄与することであります。昭和61年度も 上記の使命にのっとり 以下のような重点分野について積極的に研究を推進いたします。

1) 国土及びその周辺海域の地球科学的実態の解明

日本列島とその周辺海域の地質の解明を通じて 地下資源の評価や国土の利用・保全のために重要な基礎資料となる各種の地質図(5万分の1地質図幅 20万分の1海底地質図 空中磁気図等)を作成する。

2) エネルギー・鉱物資源の探査と評価

ナショナルセキュリティの観点から 地熱資源 深部鉱物・化石燃料資源 海底重金属資源のポテンシャルの評価手法 及び海域における新調査システムリモートセンシング技術等の開発を図る。

3) 国土の利用 環境保全 自然災害の予知

地震予知 火山噴火予知 地下空間利用 地盤沈下予測 底質汚染予測 陸域の化学的汚染評価 等の分野において 地球の過去の基本的事象の追求を通じて それぞれに対する未来予測手法の確立を図る。



垣見俊弘 所長

4) 国際研究協力・技術協力

多国間の国際共同研究 二国間共同研究 資源開発に関する国際機関への協力 海外技術者研修 発展途上国への研究者派遣 先進国・途上国との人材交流等を通じて 国際社会における我が国の責務を果たす。

ところで 上記のような当所使命は創立以来いささかも変わってはおりませんが 時代の要請は年とともに変わってまいります。昨年を例にとりますと 当所は残念ながら約40年間続いた四国出張所を閉鎖しなければなりませんでしたが 同時に地質情報解析室という小さな研究室を発足させることができました。また 科学万博が筑波で開催されたせいもあって 当所には かつてないほど多数の外国人研究者が来訪されましたが これと軌を一にして当所に海外資源特別研究官が認められました。これらは見掛け上はささやかな変化に過ぎませんが 私達はこれを 当所が未来へ向けて踏み出した“小さな第一歩”にとらえ 今後大きく育てていきたいと考えております。私達はここ数年来 地球科学の進展と社会的要請の変化に対応して 当所が取り組むべき長期的研究課題について検討を重ねてまいりました。本年はそれらの課題を実現するための具体的施策を提出する時期に来ていると考えております。当所を 創造的研究開発の能力と 社会からの要請に適切に応え得る機能を兼ね備えた 活力ある国立試験研究機関としていくために 皆様の一層のご支援 ご協力をお願い申し上げて年頭の挨拶といたします。